

# 平成23年度全公立学校における負担感軽減に向けた 取り組み（全校プロジェクト）について（取組概要）

～ 高校・特別支援学校 ～

## 1 対象校及び回答状況 （平成23年8月31日現在）

対象となる91校 ※1すべてで負担感軽減に向けた取り組みを実施。

※1 定時制、分校も1校として計上

※2 定時制5校（通信制1校含）、再編関連3校が本体校にまとめられ回答されたため、回答数は83校となる。

### 《対象校内訳》

県立高校（全日制）	60校
"（定時制・通信制）	9校
"（分校）	4校
特別支援学校	16校
熊本市立高校	2校
合 計	91校

### 《回答校内訳》

県立高校（全日制）	57校（▲3）
"（定時制・通信制）	4校（▲5）
"（分校）	4校
特別支援学校	16校
熊本市立高校	2校
合 計	83校

## 2 取組状況

### （1）必修取組事項

「ア ノー残業デー、ノー部活デーの実施」、「イ 一人一改善運動の推進」のうち、1つ以上取り組むもの。

表1 取組状況（必修総括）

項 目	実施校数
ノー残業デー・ノー部活デー（ア）	38校（45.8%）
一人一改善運動（イ）	12校（14.4%）
両方とも（ア・イ）	33校（39.8%）
合 計	83校（100.0%）

### ① 「ア ノー残業デー、ノー部活デー」の実施状況

#### ア) 取組内容

「ノー残業デー、ノー部活デー」に取り組んだ学校71校※3の取組内容は、下表2のとおり。

※3 表1より「ノー残業デー・ノー部活デー」38校 + 「両方とも」33校

表2 取組内容（ノー残業・部活）

項 目	実施校数
ノー残業デーのみ	29校（40.8%）
ノー部活デーのみ	2校（2.8%）
両方とも	34校（47.9%）
その他（定時退勤など）	6校（8.5%）
合 計	71校（100.0%）

イ) 実施回数等

表3 実施回数（ノー残業デー・ノー部活デー）

項目	実施校数
週1回（実施日未設定）	22校（31.0%）
週1回（水曜日）	33校（46.5%）
週2回以上	4校（5.6%）
その他	12校（16.9%）
合計	71校（100.0%）

② 「イ 一人一改善運動」の実施状況

「一人一改善運動」に取り組んだ学校45校※4の取組内容(例)は、以下のとおり。

※4 表1より「一人一改善」12校 + 「両方とも」33校

【取組み例】

（業務改善）

- ・ 各分掌部長が前年の資料を十分に再考した上で、ネットワークサーバーを有効に活用して協議。その後、職員連絡会で周知するよう協議を簡素化する体制をとっている。
- ・ 職員室に負担感軽減アイデア掲示板を設置し、思いついたとき、気づいたとき、閃いたときに記入（付箋紙の貼付可）する。各学期毎に報告・紹介し取組みについて検討する。

（環境改善）

- ・ 学校の施錠時間を変更（長期休業中は5時15分、冬期は午後6時）し、早めの退勤を推進する。効率よい仕事を推進。
- ・ 校内の様々な業務の対応マニュアルをデータ化し、校務支援システムに掲載。業務に係る事務処理時間を短縮する。
- ・ 机上に物を置かないことを徹底し、作業環境の整備に努め、仕事の能率を高める。（スペースリフレッシュ）

（意識改善）

- ・ 担当する業務は、常に1～2カ月先を見通して計画・推進する。
- ・ 学校評価における職員アンケートを活用して、業務の簡素化に取り組む意識の高揚を図る。

(2) 自由取組事項

各学校の状況に応じて、自由に取り組むもの。

ア 学校運営（行事の見直し、会議・委員会の見直し、和やかな雰囲気づくり、年次有給休暇の取得促進など）

・・・ 74校

イ 業務改善（校務分掌や業務の改善、外部依頼の業務の見直し、校務のICT化推進など）

・・・ 75校

ウ その他（「ゆとり月間」設定、休業中の早めの退勤推進など）

・・・ 58校

表4 取組状況（自由総括）

項目	実施校数
ア 学校運営の改善のみ	1校 (1.2%)
イ 業務改善のみ	2校 (2.4%)
ウ その他	0校 (0.0%)
アとイ	22校 (26.5%)
アとウ	7校 (8.4%)
イとウ	7校 (8.4%)
ア、イ、ウ	44校 (53.0%)
合計	83校 (100.0%)

表5 取組項目数別学校数

項目	実施校数
2項目以下の取り組み学校	9校 (10.8%)
3項目取り組んだ学校	20校 (24.1%)
4項目取り組んだ学校	25校 (30.1%)
5項目取り組んだ学校	17校 (20.5%)
6項目以上に取り組んだ学校	12校 (14.5%)
	83校 (100.0%)

① 「ア 学校運営」に関するもの

「学校運営」改善に取り組んだ学校74校※5の取組内容(例)は、以下のとおり。

※5 表4より「ア」1校+「アとイ」22校+「アとウ」7校+「ア、イ、ウ」44校

【取組み例】

ア 学校行事の見直し

- ・ スクラップ・アンド・ビルドの徹底。特にマンネリ化し、効果の期待できない行事は廃止する。また、関連する行事の実施時期を見直して統合することで、時間の確保を行う。
- ・ 体育大会・文化祭・遠足など行事の有用性（開催時期・日程・内容等）を精査し、廃止や統合を行う。  
例えば、新入生歓迎行事と遠足、部活動紹介等を一緒に実施する。

イ 会議・委員会等の見直し

- ・ 討議等の必要や緊急性、重大性のない場合は、定例会議を実施しない。また、資料の閲覧で済む内容については、会議の議題としない。
- ・ 毎週月曜日と水曜日には会議や研修を行わないようにして、児童生徒の指導に係る事務処理や教材研究の時間を確保する。

- ・ ゆうネットを利用した会議の活用を図り、集まる会議は必要最小限にする。また、会議資料はネットワークを利用し事前閲覧を進める。
  - ・ 校務分掌を見直し、会議・委員会を整理し、時間割の中で実施する。
- ウ 年次有給休暇等に関する見直し
- ・ 時間休を含めて「休めるときには休む」を合い言葉に、取得しやすい雰囲気をつくる。
  - ・ 代休を取得しやすいように前4週、後8週の振替を勧める。
  - ・ 1ヵ月1日の目標で、年次休暇の取得の促進を図る。

## ② 「イ 業務改善」に関するもの

「業務改善」に取り組んだ学校75校※6の取組内容(例)は、以下のとおり。

※6 表4より「イ」2校+「アとイ」22校+「イとウ」7校+「ア、イ、ウ」44校

### 【取組み例】

#### ア 校務分掌・業務の見直し

- ・ 学年主任に対し、輕易なものについて専決処分を認める（決裁ルートの見直しを図り、決裁の迅速化を図る）。
- ・ 起案文書を余白処理で行うためのゴム印を、各準備室等に配付し簡易起案の推進することで、文書作成の負担軽減を図る。
- ・ 複数の部署で同じような業務や資料等の作成を行っている場合、どちらか一方の部署の業務として整理統合する。
- ・ 欠席受付システムの導入を図る（職員に負担感の大きい、早朝の欠席等連絡の電話当番を機械化する）。
- ・ 本校・分校との連携で文書発送や出張等の負担を少なくする。

#### イ 外部から依頼される業務の見直し

- ・ 外部から依頼されるイベント等に関する業務の見直し（各科で分担して引き受ける）。
- ・ 外部からの事業等の参加依頼については、教育効果を考慮するとともに、事業内容や準備時間、参加要員等を見極め、過重な負担とならないように配慮する。
- ・ P T A行事の見直しとして、地区別懇談会の在り方を検討する。地域ごとに開催していた懇談会を学年別開催として学校で行う。
- ・ 研究アンケート協力の精選を図る。

#### ウ 校内LAN、校務支援システムの活用

- ・ 文書セキュアシステム活用、報告文書等のフォーマット等を共有して、業務の合理化を図る。
- ・ 事務室から教頭への自動メール転送と教頭から担当者への転送信。時間短縮と受け渡しにかかる手間の削減。
- ・ ゆうネットの行事登録、連絡機能、回覧板の活用による情報の共有化を促進する。

### ③ 「ウ その他」に関するもの

「その他」の改善に取り組んだ学校58校※7の取組内容(例)は、以下のとおり。

※7 表4より「アとウ」7校+「イとウ」7校+「ア、イ、ウ」44校

#### 【取組み例】

##### ア ゆとり期間の設定

- ・ 警備会社による解錠時間を7時40分、施錠時間を17時30分とする。
- ・ 勤務時間終了後30分以内の施錠実施。

##### イ 定時退勤の推進

- ・ リフレッシュデーの実施（毎月給料日に早く帰宅する取組を実施）。
- ・ 長期休業中は完全定時退庁を基本とし、「ノーライト」を実施。

##### ウ その他

- ・ 朝早くから夜遅くまで仕事するのが当たり前だという意識改革のための研修、業務の進め方やタイムマネジメント研修
- ・ 職員一人ひとりが組織の一員であることの自覚を常に持つよう管理職が中心となって協力体制を持った職場の雰囲気づくりを心掛ける。
- ・ 周年行事の職員合唱練習等を通じた職員の一体感を図る。
- ・ 職員が身体的・精神的に寛げる談話室を設置した。また、情報交換の場として活用することで、職員相互の協力関係を構築する。